

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床柔道整復学各論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	第2校舎203教室
担 当 教 員	尾藤何時夢・川村智広・仲村剛・ 岩村一成・林了大・澤卓実	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師として医療現場で患者さんに施術を行うためには、判断をするための知識が必要になります。判断するためには ヒトの身体について、専門以外にも科目横断的に理解しておく必要があります。そのために、この講義では科目横断的な視 点から俯瞰的に判断できるようになるための知識を培います。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験： 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学・生理学(全国柔道整復学校協会編集) 適宜資料の配布を行う						
《授業外における学習方法》						
授業前後に予習と復習を行うこと						
《履修に当たっての留意点》						
①疑問点は質問をして、その場で解決させること。 ②この科目の理解を深めるためには予習と復習の両方が必須です。單元ごとに遅れの出ないように予習と復習を行ってくだ さい。						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	ヒトの身体の基本的構造について再確認する①		解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマに おける 授業予定	オリエンテーションと総論Ⅰ			
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	ヒトの身体の基本的構造について再確認する②		解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマに おける 授業予定	総論Ⅱ			
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	ヒトの身体の基本的構造について再確認する③		解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマに おける 授業予定	総論Ⅲ			
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	血液と疾患の関連性を理解する①		解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマに おける 授業予定	血液の組成、働きと疾患について			
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	血液と疾患の関連性を理解する		解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマに おける 授業予定	血液の循環と疾患について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器と疾患の関連性を理解する	解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	呼吸器の機能と疾患について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器と疾患の関連性を理解する	解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	泌尿器の機能と疾患について①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器と疾患の関連性を理解する	解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	泌尿器の機能と疾患について②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養、代謝と疾患の関連性を理解する	解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	栄養、代謝と疾患について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器系、吸収と疾患の関連性を理解する	解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	消化器系、吸収と疾患について①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器系、吸収と疾患の関連性を理解する	解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	消化器系、吸収と疾患について②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌系と疾患の関連性を理解する	解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	内分泌系と疾患について①		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌系と疾患の関連性を理解する	解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	内分泌系と疾患について②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌系と疾患の関連性を理解する	解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	内分泌系と疾患について③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌系と疾患の関連性を理解する	解剖学 生理学 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	内分泌系と疾患について④		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床柔道整復学各論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	第2校舎203教室
担 当 教 員	尾藤何時夢・川村智広・仲村剛・ 岩村一成・林了大・澤卓実		実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》						
運動器系の疼痛・診察の鑑別診断・整復固定・後療法 スポーツ外傷 軟部組織損傷の診察の鑑別・検査法						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験： 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 適宜資料の配布を行う						
《授業外における学習方法》						
次回授業内容を確認するため、第1回目授業時に授業計画を配布することにより、学生は事前学習を行うとともに小テストなどで確認する						
《履修に当たっての留意点》						
疑問点は質問し、日々の反復復習をしっかりと行ってください。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	体温と疾病の関連性について理解する。	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	体温とその調節			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の構造と外傷治癒の関係性を理解する①	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	骨の構造と疾病と外傷①			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の構造と外傷治癒の関係性を理解する②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	骨の構造と疾病と外傷②			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の構造と外傷治癒の関係性を理解する③	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	骨の構造と疾病と外傷③			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の構造と外傷治癒の関係性を理解する①	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校協会編集)	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	筋の構造と疾病と外傷①			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の構造と外傷治癒の関係性を理解する②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	筋の構造と疾病と外傷②		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の構造と外傷治癒の関係性を理解する③	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	筋の構造と疾病と外傷③		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の構造と外傷治癒の関係性を理解する④	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	筋の構造と疾病と外傷④		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系と疾患・外傷との関連性を理解する①	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	神経系の構造と疾病と外傷①		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系と疾患・外傷との関連性を理解する②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	神経系の構造と疾病と外傷②		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系と疾患・外傷との関連性を理解する③	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	神経系の構造と疾病と外傷③		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系と疾患・外傷との関連性を理解する④	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	神経系の構造と疾病と外傷④		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動と外傷の関連性を理解する①	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	運動器系疾患と外傷①		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動と外傷の関連性を理解する②	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	運動器系疾患と外傷②		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの身体の構造と外傷・疾患の関連性を判断できるようになる。	解剖学・生理学 病理学・一般臨床 (柔道整復学校 協会編集)	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと
		各コマにおける授業予定	まとめ		